

対象者・抽出人数	市内に居住する18歳以上の方 5,000人（外国人含む）	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	調査票を郵送、郵送回答又はインターネット回答	調査時期	令和4年5月25日～6月16日
回収標本数	2,572票（回収率51.4%）		

## 1 市政への満足度と要望

**満足度が最も高いのは「バス・地下鉄などの便」で15年連続  
要望は「地震や台風などの災害対策」が12年連続で1位**

- ・満足度は、昨年度調査と同じ項目が上位を占めています。
- ・要望は、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」が昨年度7位から5位となりました。1位から4位は、昨年度調査と同じ項目が上位を占めています。

(n=2,572)

(n=2,572)

順位	満足の上位5項目（複数回答）	
1	バス・地下鉄などの便	53.4% 52.4%(1)
2	ごみの分別収集、リサイクル	34.8% 33.5%(2)
3	良質な水の確保や安定供給	24.5% 23.4%(3)
4	公園・動物園の整備	21.4% 22.2%(4)
	最寄り駅周辺の整備	21.4% 21.3%(5)

順位	要望の上位5項目（複数回答）	
1	地震や台風などの災害対策	31.1% 31.7%(1)
2	高齢者福祉	28.9% 28.8%(3)
3	病院や救急医療など地域医療	28.5% 30.4%(2)
4	防犯対策	25.7% 27.4%(4)
5	通勤・通学・買い物道路や歩道の整備	23.4% 23.1%(7)

\*下段は令和3年度調査結果(n=2,572)と順位

## 2 定住意識

**現住地定住意向は7割を超えて、転居意向は過去最低に  
横浜市を住まいとして選んだ理由は「通勤・通学に便利だから」  
横浜に住み続ける理由は、「持家だから」が5割半ばで1位、  
次いで「長年住んでいて愛着があるから」、「買い物、医療などの  
生活環境が整っているから」**

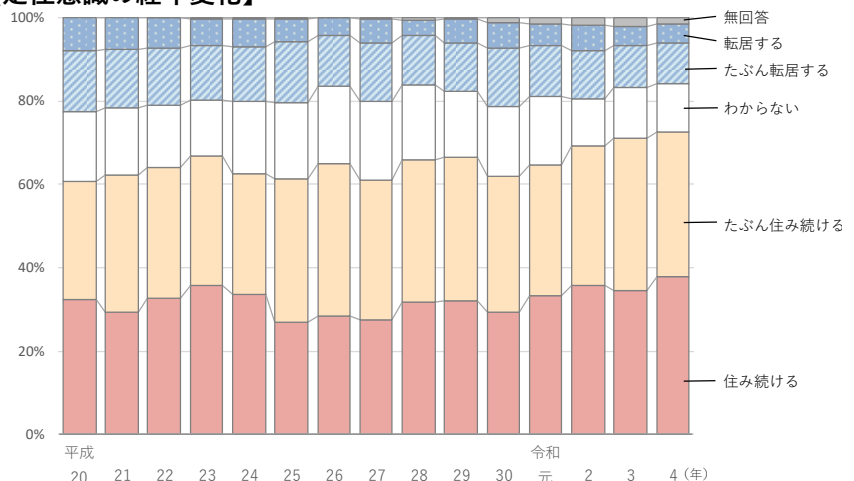
### 【現住地定住意向】

- ・これからもずっと今の住まいに住み続ける現住地定住意向（「住み続ける」＋「たぶん住み続ける」の合計）は72.5%、転居する意向のある人（「たぶん転居する」＋「転居する」）は14.3%でした。
- ・経年変化をみると、現住地定住意向は6割台で推移していましたが、昨年度と今年度は7割を超えています。一方、転居意向は14.3%で過去最低となりました。

(n=2,572)

住み続ける	37.8%
たぶん住み続ける	34.7%
わからない	11.5%
たぶん転居する	9.8%
転居する	4.5%
無回答	1.7%
定住意向(計) 「住み続ける」「たぶん住み続ける」の合計	72.5%
転居意向(計) 「たぶん転居する」「転居する」の合計	14.3%

### 【定住意識の経年変化】



定住意識

【横浜市を住まいとして選んだ理由】

- ・「通勤・通学に便利だから」が4割を超えて最も多く、次いで「親や子、親族、友人などがいるから」(27.3%)、3位は「生まれ育った場所だから」、「横浜が好きだから」(同率22.7%)でした。

【横浜に住み続ける理由】

- ・「自分や家族の持家だから」が5割半ばで最も多く、次いで「長年住んでいて愛着があるから」(37.3%)、「買い物、医療などの生活環境が整っているから」(32.7%)でした。

(n=2,439)

横浜市を住まいとして選んだ理由 (上位5項目:複数回答)	
通勤・通学に便利だから	42.6%
親や子、親族、友人などがいるから	27.3%
生まれ育った場所だから	22.7%
横浜が好きだから	
買い物、医療などの生活環境が整っているから	19.4%

(n=1,975)

横浜に住み続ける理由 (上位5項目:複数回答)	
自分や家族の持家だから	54.2%
長年住んでいて愛着があるから	37.3%
買い物、医療などの生活環境が整っているから	32.7%
横浜が好きだから	32.2%
親や子、親族、友人などがいるから	31.9%

3

地域におけるつながり

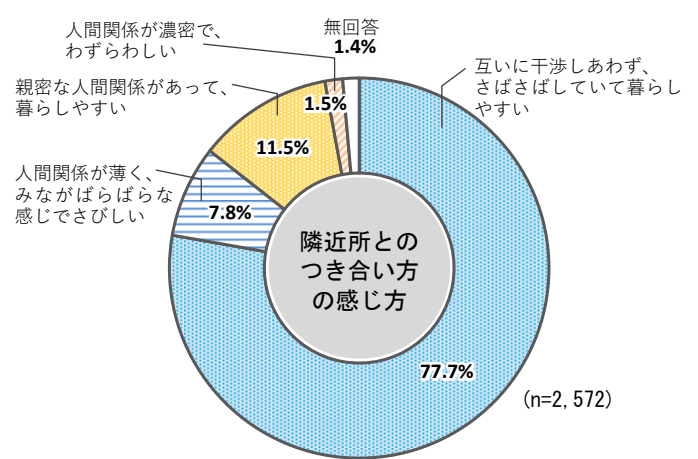
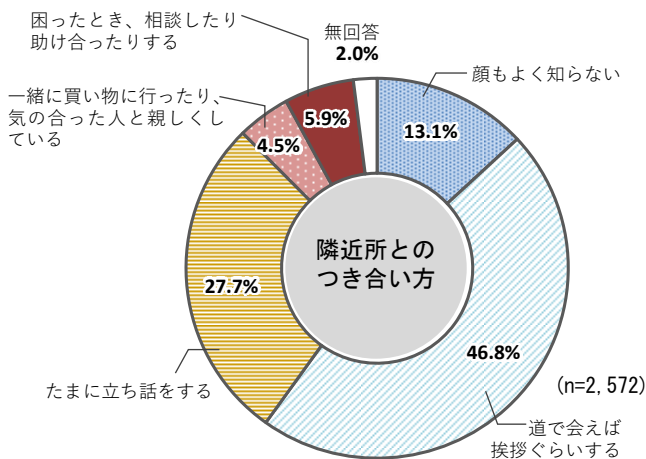
隣近所とのつき合い方では「顔もよく知らない」が1割半ば  
隣近所とのつき合い方の感じ方は「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」が7割半ば

【隣近所とのつき合い方】

- ・「道で会えば挨拶ぐらいする」が最も多く46.8%でした。一方、「困ったとき、相談したり助け合ったりする」は5.9%でした。

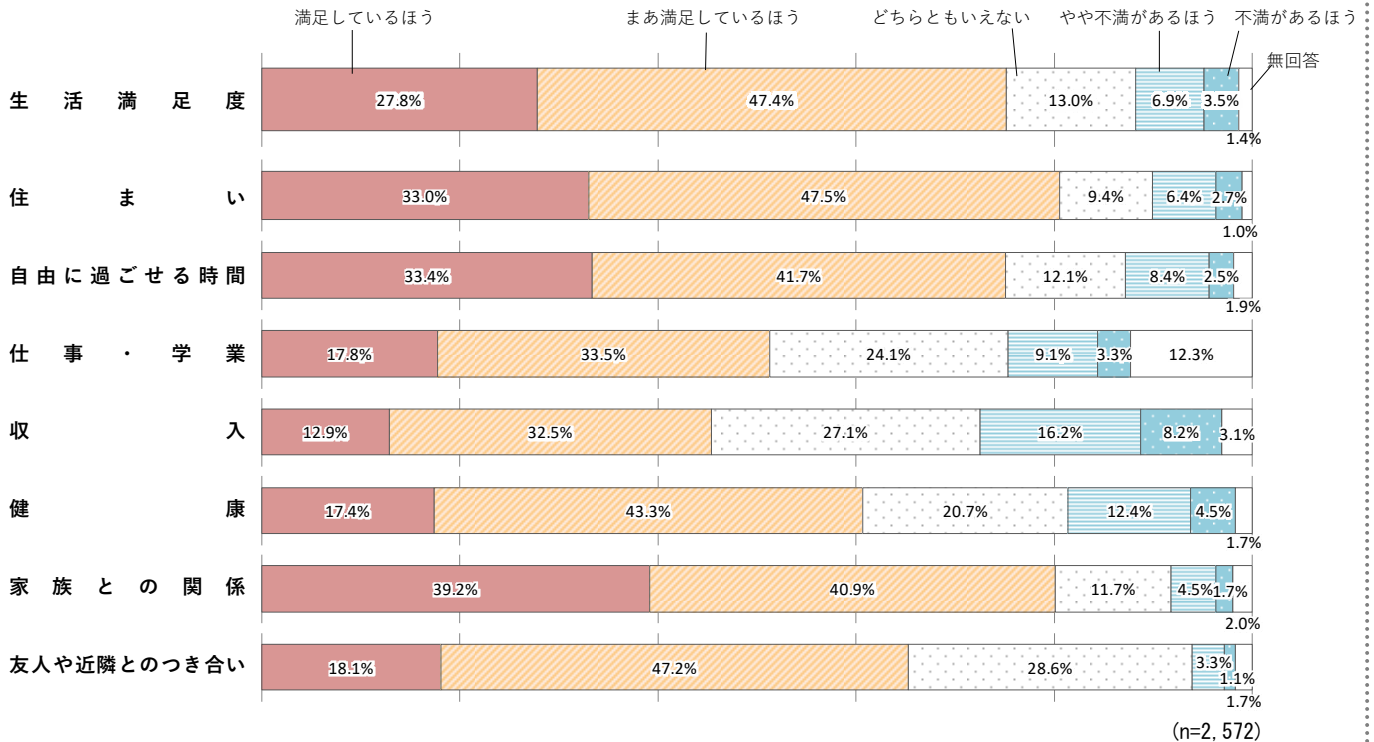
【隣近所とのつき合い方の感じ方】

- ・「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」が77.7%でした。



## 今の生活に『満足』している割合は7割半ば 「住まい」と「家族との関係」で『満足』が8割を超える

- ・今の生活に『満足』（「満足しているほう」と「まあ満足しているほう」の合計）と回答している人の割合は75.2%でした。
- ・項目別に見ると、「住まい」と「家族との関係」で、『満足』が8割を超えています。一方、「収入」は『満足』が4割半ばと他の項目に比べ低く、『不満』（「不満があるほう」と「やや不満があるほう」の合計）が2割半ばと他の項目に比べ高くなっています。



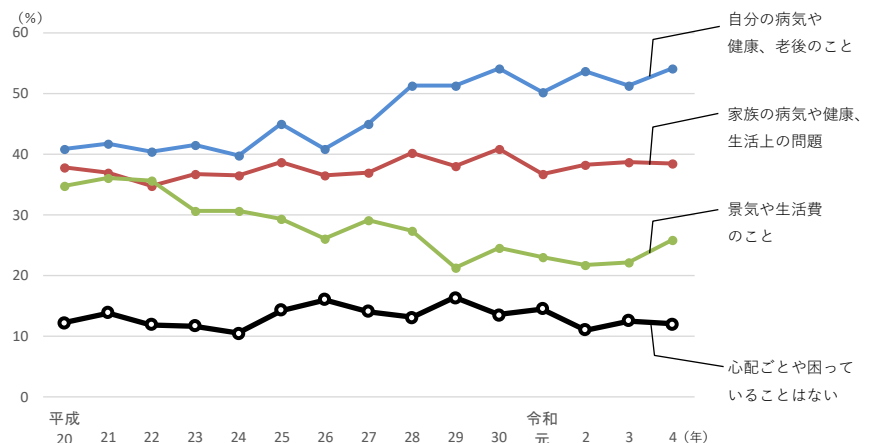
## 「自分の病気や健康、老後のこと」が54.2%で過去最多

- ・「自分の病気や健康、老後のこと」が54.2%で最も多くなっています。一方、「心配ごとや困っていることはない」と回答した人は12.1%でした。
- ・経年変化をみると、「自分の病気や健康、老後のこと」は、過去最多となりました。

(n=2,572)

自分の病気や健康、老後のこと	54.2%
家族の病気や健康、生活上の問題	38.5%
景気や生活費のこと	25.8%
仕事や職場のこと	14.3%
子どもの保育や教育のこと	11.5%
住宅のこと	10.4%
事故や災害のこと	9.1%
子どもの結婚や就職のこと	6.2%
失業・倒産や収入が減ること	6.0%
犯罪や防犯のこと	4.3%
環境問題	4.0%
近隣からの悪臭・騒音	3.1%
その他	3.6%
心配ごとや困っていることはない	12.1%
無回答	2.5%

【心配ごと上位3項目と「心配ごとや困っていることはない」の経年変化】



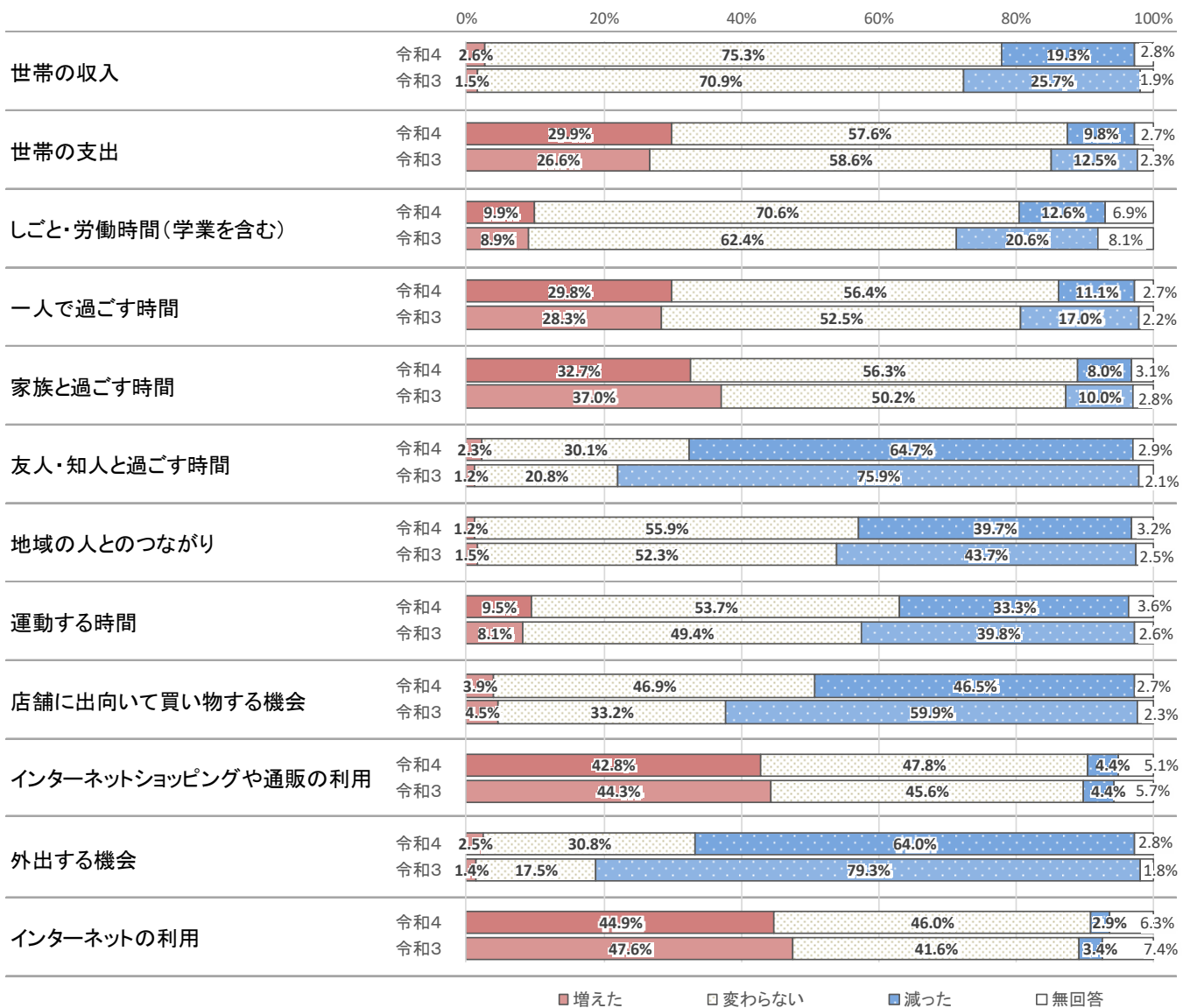
\*注 平成27年まで、「自分の病気や健康、老後のこと」は「自分の病気や老後のこと」、「家族の病気や健康、生活上の問題」は「家族の健康や生活上の問題」としていた。

「友人・知人と過ごす時間」「外出する機会」が「減った」と回答した人が6割半ばで、昨年度と比べ減少。

行動時間が「増えた」のは「スマートフォンの利用」、「家事」。「趣味・娯楽」や「通勤・通学」をする時間は「減った」。同居や離れて暮らす家族や親族、収入や貯蓄が前より重要だと感じるようになった人が4割

【新型コロナウイルス感染症の影響による変化】

- ・「インターネットの利用」「インターネットショッピングや通販の利用」では、「増えた」とする割合が4割を超えています。
- ・「友人・知人と過ごす時間」「外出する機会」は、「減った」が6割半ばでした。
- ・昨年度と比べると、ほとんどの項目で「変わらない」の割合が増えています。特に「外出する機会」「店舗に出向いて買い物する機会」では13ポイント以上増加しました。

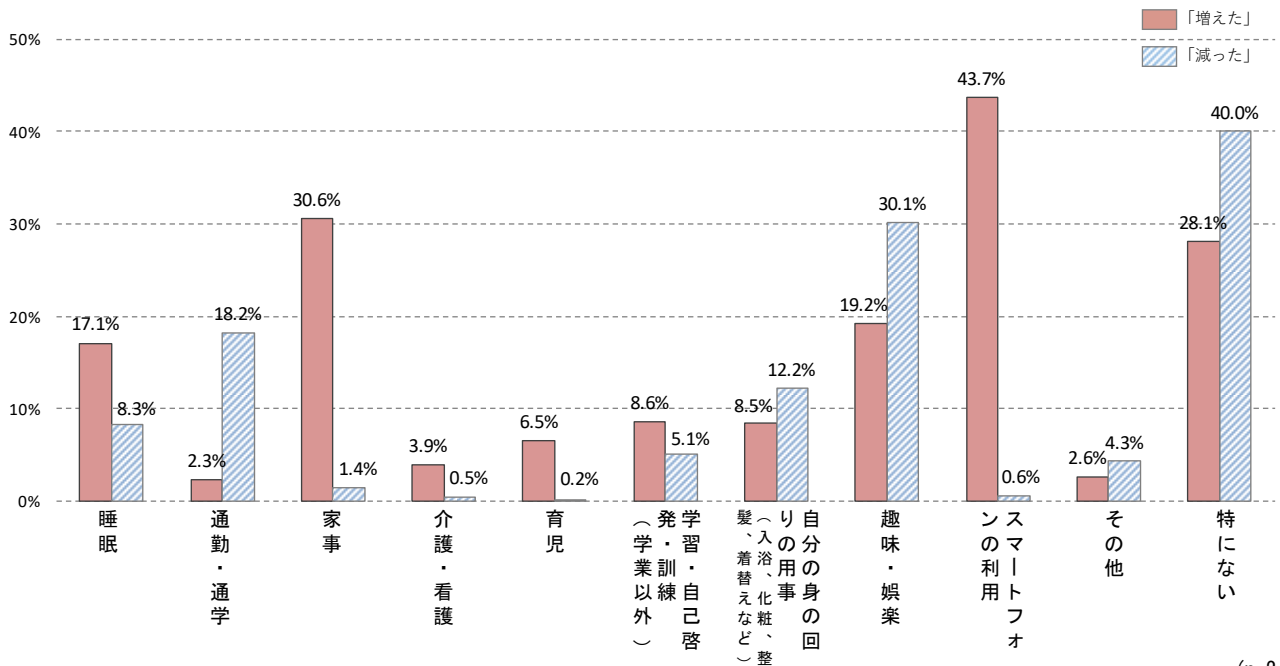


(n=2,572)

## 新型コロナウイルス感染症の影響

### 【感染拡大の前と比較した行動時間の増減】

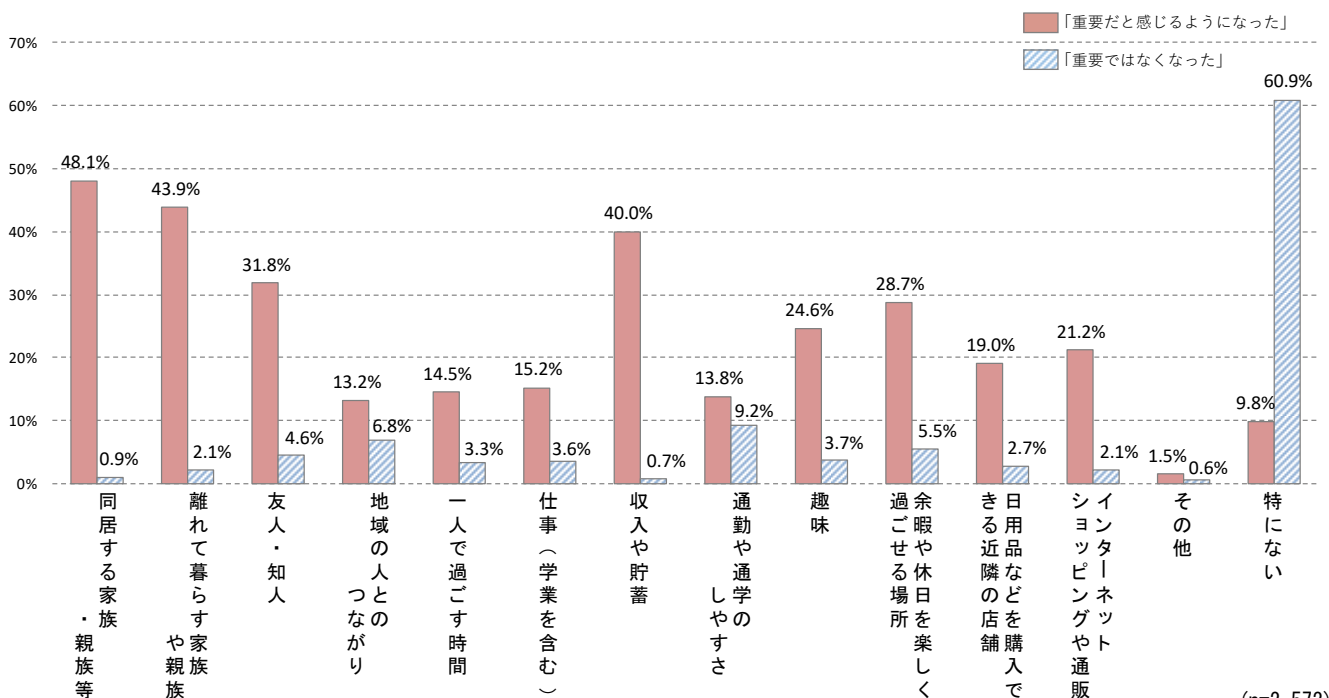
- ・ する時間が「増えた」と回答した割合が高いのは、「スマートフォンの利用」(43.7%)、「家事」(30.6%)でした。
- ・ する時間が「減った」と回答した割合が高いのは、「趣味・娯楽」(30.1%)、「通勤・通学」(18.2%)でした。この2項目と「自分の身の回りの用事」は、「減った」と回答した割合が「増えた」と回答した割合より高くなっています。



(n=2,572)

### 【感染拡大の前と比較した重要度】

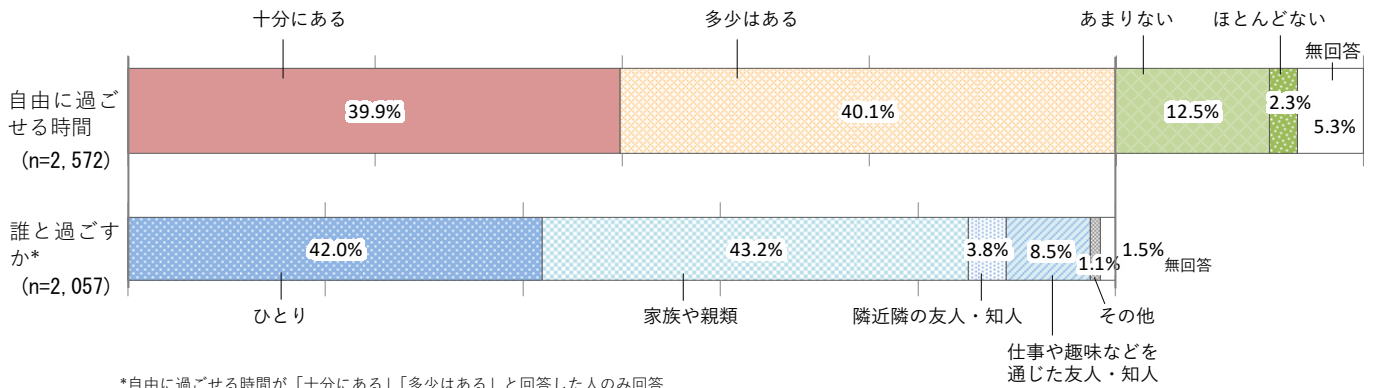
- ・ 前より重要だと感じるようになったことでは、「同居する家族・親族等」「離れて暮らす家族や親族」「収入や貯蓄」で4割以上となっています。
- ・ 前より重要ではなくなったことでは、最も多い「通勤や通学のしやすさ」でも1割未満で、「特にない」とする人が6割を超えています。



(n=2,572)

## 自由に過ごせる時間がある人は「十分にある」、「多少はある」を合わせて8割

- ・自由に過ごせる時間がある人は、「十分にある」、「多少はある」を合わせて8割でした。
- ・自由に過ごせる時間がある人のうち、「ひとり」で過ごすことが多い人は4割を超え、「家族や親類」と過ごすことが多い人も4割半ばとなっています。



## 「医療体制が充実している」が49.4%で最も多い

- ・「今後の横浜のまちについて、どのようなまちになるとよいと思うか」についての設問（5つまで選択）では、「医療体制が充実している」が49.4%で最も多く、次いで「高齢者や障害のある人も暮らしやすい」（35.0%）、「豊かな自然がある」（34.9%）でした。

